

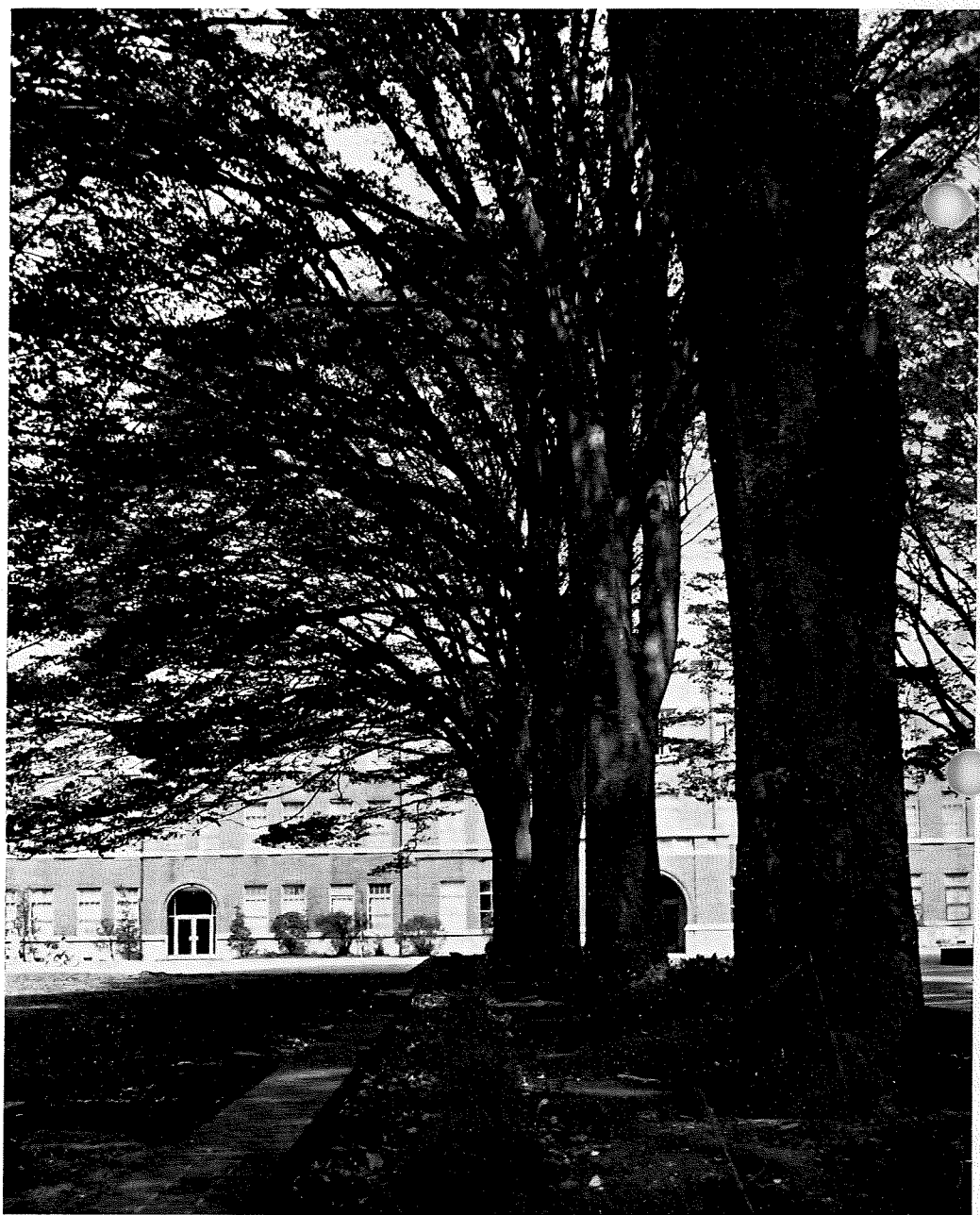
成蹊会誌

1968年12月

第

29

号



目 次

随筆…教職員

テラー・キーを授賞して
四半世紀を振り返って
研究室の窓から
櫛の下で

野 田 信 夫 1
中 島 和 2
松 尾 登 3
朝 倉 孝 吉 5

恩師謝恩会

お礼のことば
古稀を迎えて
成蹊に学ぶ

香 取 良 範 7
斎 藤 国 衛 9
野 瀬 寛 顕 10

随想…卒業生

無題
成蹊で学び、そして得たこと
師と父
アメリカの流通業と日本
バレエと共に
レコードとやきとり

進 藤 次 郎 13
宗 像 英 二 14
河 野 義 克 16
安 田 敬 一 18
太刀川 瑠璃子 19
丹 治 誠 20

ヨーロッパ紀行

ヨーロッパの自然と文化に接して
葦の髄からヨーロッパ
ヨーロッパの旅

物故会友 22
小 島 鉦 作 23
横 手 長 治 25
野 村 純 三 30

会員近況

会員短信
旧制高校18回文科卒業生の集い

32
斎 藤 俊 衛 41

成蹊会近況

人事・会議・事業
成蹊高校同窓会懇親会
東海支部創立20周年

45
城 戸 毅 46
池 田 武 48

成蹊学園近況

学園近況
就職状況について

49
上 野 正 二 50

成蹊会会費納入者

51

々を眺めやり乍ら、研究室のことも記してみることになった。

長く、主として航空燃料、航空潤滑油、精密機械油など石油系統の油の研究及び製造に関係していましたが、成蹊にきてからは、油脂の酸化及び加熱による変性の研究を主として参りました。

油脂の酸化が進んで、過酸化物の蓄積がある程度以上となりますと、栄養的にも悪く、毒性を示すことは、私共の研究室の仕事からも明らかにしたことですが、したがって、油脂及び油脂含有食品の流通、消費の過程での酸化の問題は十分な注意が必要であると考えられます。

尚この頃は生体中における脂質の酸化と、種々の疾病例えば、肝障害、神経系疾患、動脈硬化症、老化等との関連が問題とされ、やかましく論ぜられるようになりました。

これらの仕事については、昭和三十六年秋に、アメリカ、オレゴン州立大学に開催された「食用油脂の変質に関するシンポジウム」に出席、招待講演を行い、其後ヨーロッパを廻り、二、三の大学でも同様な講演を行いました。

その折々に海外に居られる卒業生の方々には、成蹊会を催して下さったり、色々とお世話になりましたが、大いなる「宇」という校歌の中の言葉をいつも想ったことでした。

工学部開設後は、現在の研究室に移り、今迄の研究を進めますと共に、特に油脂が加熱された時の構造変化——環状化合物の生成に関する研究に努めております。環状構造化合物が多く出来る条件をも検討し、この工業的利用をも発展させたいと思います。一方では

界面活性剤の研究も併せて行っております。

昭和四十年七月から、ミネソタ大学、ホルメル研究所の客員研究員として、一年程滞在しました時には、油脂に対する放射線照射の影響についての仕事をいたしました。放射エネルギーは、バクテリアや、微生物を殺し駆除する目的で用いられるわけで、食品の保存、殺菌消毒に対する使用が考えられ、多くの食品は油脂を含んでおりますので、それに対する放射線照射は興味ある問題の一つであります。この頃は日本でもこのことが取り上げられてきました。

帰途、アメリカ東部、ヨーロッパを廻って帰国しましたが、ボストンでは、旧制高校を出られた、岩波泰夫、宮本正光、神保真也、吉田浩介の方々と御家族には、特にお世話になりました。家族も共に招いていただいて、成蹊会を日本料理屋の「京都」で催して下さいました折のことは、ボストンの街と共に、永く忘れない思い出で御座います。またロンドンでは、三菱商事の榎原稔さん宅にお邪魔して、広い庭の芝生で御家族と共に楽しく歓談の時を過したことを懐しく回想いたします。

工学部工業化学教室の私共の油脂研究室は食用油脂の生化学的な面をも含めて、出来るだけ特色をもった研究活動を、助手、大学院学生、卒業研究生の諸君と共に、つづけてゆきたいと念じております。

研究室の窓から見ますと、西の空が赤く夕焼けて、その前に櫻の木立が黒々と影絵のように見られる美しい夕暮となりました。

学園関係の方々、卒業生の方々の御健康を祈り、益々研究と育英の道につとめてゆきたいと思っております。(成蹊大学工学部教授)

櫻の下で

朝倉孝吉



昨年十月から、二十五年ぶりに私は「成蹊」へ通う身となりましたが、名物の櫻がずいぶん成長したことに共に学園全体の大きな変化に驚きました。

かつてのテニスコートや四百メートルトラック、フィールドの処にはいくつもの建物が立ち並び、大勢の学生がゆきまわっています。報命神社、明正学寮、作業畑の辺は中、高校になりました。建物が多くなったため、だいぶ狭くなったように感じますが、都内の多くの学校にくらべるとまだまだ緑に恵まれ、近頃おはよりの「過密」からは程遠いことは大変な幸せだと思います。

それにしても「過密」ということは、何事であれよくないように思います。

わが国も国土が狭く人口が多い——過密——ため、いろいろの困難な問題があります。

昔から「田毎の月」といわれるように、かなり山の上の方まで田や畑をつくって狭い国土を利用してきました。イギリスの学者が、日本のこのような棚田や段々畑を東洋のピラミッド——エジプトのピラミッドより資本投下量は大きいかも知れないし、現在も活動している——といったのはかなり有名な話になっています。

ある地方で農夫が棚田の除草をやって一番上まで済ませたと思つて、腰をおろし一服し、さてと立ち上ったら、かぶつていた「すげ笠」の下に三株の稲が植った田が一枚残っていたという話がある程です。

このような国土の狭さが一因となって、われわれ日本人は「どうもコセコセし、せつからで、じつくりした仕事にが手」ということを耳にします。たしかにロマンローランの「ジャンクリストフ」とか、シュンペーターの「経済分析の歴史」のような大著は日本人の中から生れにくいようです。私もなる程とうなづいたことがいく度あります。

曾つて私はニューヨークの国際連合本部の事務局に勤務していましたが(国連の要請で日本銀行より出向)その時の同僚にMという愉快なフィンランド人がいました。ある日、私のボス(国連統計局長、アメリカ国籍のロシア系ユダヤ人、仕事熱心で三食とも国連の食堂で食べるような生活をするので、奥さんに離婚され仕事を妻としている男性)の部屋でMとボスと三人で私の書いたペーパーについて議論をしていました。Mは突然「失礼」といってスーッと席を立ちました。ボスと私は手洗いに立ったものとはばかり思っていました。Mは四階のキャブ

エテリヤで女性とデートの約束があったのです。四十五分程して室に戻ってきました。仕事の鬼であるボスは大変叱りましたが、Mは平然たるものでした。これは一寸極端な例であり、またほむべき事ではありませんが、われわれ日本人と対比してこの神経の太さに全く驚ろいた訳です。欧米人とか中国人には本当に「ずぶとい神経」をよくみうけます。

またあるとき、私はニューヨークのラッシュ時に地下鉄の故障にありました。駅員にきいても肩をすくめるだけ、乗客もだまってまっている光景をみた時、イライラしている自分から日本人の同様の場合の様相——「駅長を出せ」などとさわぐ——を思い出して、悠々せまらぬ人々に敬意を表したものです。この悠長さ神経の太さが息の長い仕事にもつながるのではないかと考えました。いろいろの国の人々と一緒に働いてみて私は、日本人の素質が決して欧米人にまさるとも劣らないことを確信するようになることに、日本人のせっかちさ、コセコセした神経が一層残念に思えたものです。

日本人の素質の優秀さは、ニューヨークの小学校で一番をとるのは日本人か中国人が多いといわれていることでもわかりますが、私も国連在勤中三人の秘書（黒人と白人の混血で英領ギアナからきたイギリス国籍、アメリカ国籍、ポルトガル国籍の中国人の三人の女性）にいろいろ仕事をしてもらった経験でハッキリしました。中国人以外の二人は明らかに同種の仕事をする日本人の女子事務員より仕事の能力は劣ること、とくに不器用さはかなりひどいと思いました。しかし、仕事に好き嫌いのような個人的な感情をさしはさまな

いで、ビジネスと割り切り、さっぱりした快活さと、義務感をよく調和させた執務態度は、三人とも日本人の女性よりも上だと思いました。もちろん、小さい時からな社会生活環境とか、職場のふんいきの差などを考えると単純に比較して優劣をつける訳にはいきませんが、彼らの執務態度の根柢にはやはり何か太い線が貫かれているように思えます。

このように執務態度ではどうも一步を譲らざるを得ませんが、仕事をこなす能力、素質では確に日本人の方がすぐれているように思えます。

このすぐれた素質の上に太い神経とねばり強さをかね備えた人間像ができれば、すばらしいであろうと、私はいつも国連ビルの三十階の自分の部屋で考えるようになりました。と同時に、国々の国士、風土および国際環境がいかにその国民の性格形成に大きな影響を与えているかということもいろいろの国々について考えざるを得ませんでした。

まだまだ緑の多い成蹊の庭で、大きくなった樺の木の下で、次の世界を背負う若人の育成という仕事に従うことになった私は、日本人の優秀な素質に加え、太い神経をもった粘り強い人間像の育成にはげみたいと念じています。それには成蹊本来の特質、「人間を大切にす少数で行き届いた教育」がますます重要な要素になるであろうと思います。

一方、家庭においても、教育ママが勉強々と子供の尻をたたくよりも、人格の陶冶という最も基本的な面にきびしくなることが大切であり、必要ではないでしょうか。

（成蹊大学政経学部教授・旧制高校十六回卒）

第十回

恩師謝恩会

恩師謝恩会は成蹊会が永年に亘って成蹊教育につくされた特別会員の先生方をお招きして、感謝の微意を表わし、併せて関係会員から寄せられましたお祝金を贈呈する催しであります。この催しはすでに第一回（昭和三十二年）以降四十七名の先生方をご招待しておりますが、本年度は満七十才を迎えられました香取良範、齋藤国衛、野瀬寛顕の三先生にご臨席願ひ、十一月三日、成蹊小学校において謝恩会を開きました。なお会員各位から寄せられましたお祝金は、ご指定どおりの先生方にご芳名と金額とを添え贈呈いたしました。

お礼のことば

香取良範



〔略歴〕 大正十五年四月から昭和二十五年三月まで成蹊小学校教諭、その間四回担任、引続き昭和三十五年三月まで成蹊中学校数学科教諭、昭和三十九年十二月より現在に至るまで成蹊国際特別学級講師
現住所 武蔵野市吉祥寺北町一の八の一三
電話 ○四二二二二一五六九二

明治百年を記念する年を迎えて、私は満七十才になりました。

成蹊会は、十一月三日文化の日の佳辰を選び、満七十才を迎えた私たちを招いて、謝恩顕彰の会を催し、多額のお祝金を贈ってく下さいました。この上もない喜びであり、身にあまる光栄です。何とお礼を申しあげてよいのか適切なことばを見出すことができません。感謝感激の極みです。

私にとって、今年はまだことに恵まれた年でありました。去る八月五日には早稲田大学記念会堂で挙行された日本数学教育会創立五十年の式典において、わが国の算数、数学教育の功労者として表彰状と記念品をいただきました。

これ一偏に多くの方々のご指導ご支援の賜であると感謝いたしております。

さて、私の成蹊生活を考えますと、ずいぶん長く勤めさせていだいたものだと思います。私が成蹊にまいりましたのは、大正十五年四月で、その年の十二月には昭和と改元されたので、四十有余年も勤めさせていただいたことになりました。

しかし、成蹊との関係はそれ以上です。恩師自由教育の提唱者手塚岸衛先生から中村春二先生への紹介状をいただいて、池袋の成蹊を訪ねたのが大正九年の秋であったと記憶していますから、その時から教えると五十年にもなるようです。

いや、師範学校の生徒の時、修養団に入団して、凝念を行ない、心力歌を唱えたことがありますので、成蹊との関係はそれ以前にさかのぼることになります。

中村春二先生を池袋の成蹊にお訪ねしたとき、先生は私を気持よ

東海支部創立二十周年

御挨拶

支部長 池田 武

東海支部は会員各位の御協力により毎年会員が増加し、現在二百名近いと思いますが、本年は支部発足以来丁度二十年に当り、たまたま明治百年にも当るので、御祝いをする計画が幹事さんの間で持ち上りました。

幸い会員各位の御協力御援助により会場の国際ホテル、記念品の額皿、抽選の品、ビールの寄贈外現金の寄付も多数集まり、特に東京本部からの御寄付も頂いて、当初幹部一同の最も心配していた資金不足の問題は完全に解決されたことは誠に感謝に堪えません。

今回は特に夫人子供さんの同伴を願ったため、約百余名の会員の親睦を深めた事と女性を交えてなごやかな雰囲気の中に会が進められ、最後には成蹊おどろも披露され、八時半頃校歌と成蹊会の万才を以って終了しました。

顧みますと、戦時中、滝氏を中心として丹治氏、岡野氏等数人の会合から始まったものが、戦後支部の形態を具えて滝支部長、井口支部長を経て今日に至りました。此の間忘れられないのは立松氏経営の「タチソウ」を常にご利用させて頂いていることです。



東海支部20周年記念パーティ(10月22日・名古屋国際ホテル)

又会員の方にも東京を離れている淋しさもあってか努めて出席され、毎回常に三十名を越え、時には四十名に近い出席で会場に溢れる盛況であります。

成蹊は学園の創立者、中村春二先生が池袋に学校をつくられ、小学校・実務学校・中学校・専門学校・女学校と数を増し更に吉祥寺に移ってから、高等学校・大学と発展しました。

が成蹊精神は引継がれて居るものと信じて居ります。東海支部も会員相互の親睦とこの精神の高揚を計り度いと考えて居ります。

(鹿島建設取締役名古屋支店長・中学六回卒)

記念パーティについて

成蹊会東海支部は戦後創立以来本年で二十周年を迎えたので、十月二十二日午後六時より名古屋国際ホテルにおいて盛大な記念パーティを開催した。

現在支部は、支部長池田武(中六) 副支部長丹治道生(旧高四) 柴田二三男(旧高六) 岡野公平(旧高七) 以下会員約二百名である。

当日は極めて盛会で出席者百余名を教え、特に来賓として本部より谷岡常務理事の出席を得、村上成蹊会会長よりの祝辞の披露があり、又東海支部育での親故滝兵右衛門氏未亡人の御出席もあり、その他富田先生はじめ先輩後輩相づかい、家族同伴の会員も多く和気あいあいの中にパーティを進め、余興として寮歌成蹊頌り最後に校歌を斉唱して意義深く終了した。

(東海支部幹事 山岸常夫記)

成蹊学園近況

昭和四十三年 五月一日

昭和四十三年十月三十一日

○図書館

一、高柳賢三文庫目録完成(五月十一日) 目録をご遺族はじめ学内外関係者に配付した。

二、寄贈図書

(一) 故長岡半太郎氏遺族より漢籍一六五点、一、二〇〇冊

(二) 英国文化振興会図書室より雑誌二種、九一冊

○理事會(五月二十三日・三菱銀行本店)

一、昭和四十二年度決算並びに剰余金処分案承認に関する件

二、基本財産廃棄処分に関する件

三、学則の一部改正に関する件

四、退職給与金規則の一部改正に関する件

五、成蹊学園評議員の選任に関する件

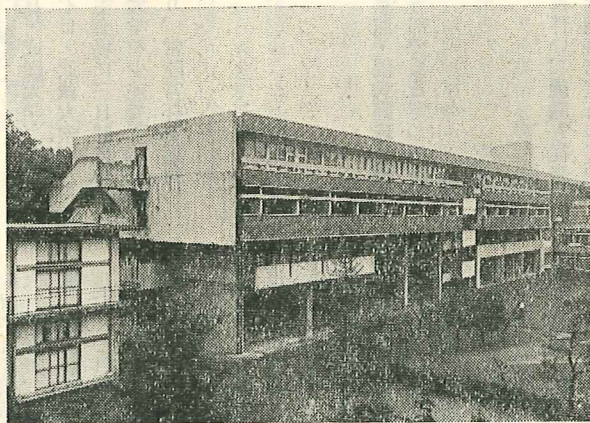
石井 照久(法学部長)

中村 清一(経済学部)

鶴飼 信成(法学部)

巽 博一(経済学部)

山田 晟(法学部)



大学四号館竣工(増築)

○四大学文化祭(六月一日・二日・武蔵大学)

恒例の四大学祭も第十二回を迎え、統一スローガン「創造と連帯の環を」と題し開催された。入場参加者は延べ一五、〇〇〇名、四大学参加団体による講演、展示、音楽会などいづれも盛況であった。

○野田大学長「テラー・キー賞」受賞

(六月十日)

マネジメントのノーベル賞といわれる「テラー・キー賞」の一九六八年度受賞者に野田信夫学長が選ばれた(記事一頁参照)

○大学北海道地区父兄會(七月二十四日・札幌)

六十三名の父兄が出席、各学部の現状説明、スライドによる大学紹介、質疑、個別懇談を行なった。

○大学公開講演會(七月二十四日・札幌)

北海タイムスと共催による公開講演會を北海タイムスホールで行なった。聴衆約三〇〇名

現代と若い人の心

文学部教授 島崎 敏樹

法学部長 石井 照久

○大学四号館増築(四階) 工事竣工(九月十二日・写真参照)

最近の労働問題

本年三月十五日より工事中の大学四号館の増築工事は八月二十日に完成し、九月十二日竣工式を行なった。

○日本労働法学会（十月九日・成蹊大学）

○日本海法学会・日本航空法学会（十月十一日・成蹊大学）

○四大学運動競技大会（十月二十五日～二十七日・武蔵大学）

第十九回四大学運動競技大会は武蔵大学を主会場に三日間にわたる熱戦をくりひろげ、本学は総合で学習院大学を少差で下し、昨年につづいて連勝通算五度目の優勝をかさり、常陸宮杯を獲得した。

総合優勝 成蹊大学 六三・〇点

二位 学習院大学 六二・五點

三位 成城大学 五〇・二五點

四位 武蔵大学 三六・七五點

なお競技種目別の優勝は、柔道・剣道・卓球・硬式庭球・バドミントン・バレー・ラグビー・硬式野球の各部である。

就職状況

成蹊大学では学部を増設と事務組織の改編に伴い、就職も従来の政治経済学部就職相談室から、昨年成蹊大学就職事務室として独立し、今年から新たに文学部を、そして来年度からは政治経済学部が分化した法、経済学部を加え、三学部の学生を扱うことになりました。従って今年は政治経済学部としての就職は最後の年に当り、一つの区切りともなりますので、ここで成蹊大学の文科系の就職につ

が受験可能であり、内容も金融関係を除く全業種に涉っています。内定者数は製造業二六名、商事貿易業二五名、マスコミ、広告業二二名、その他十九名、計九二名（内女子六一名）ですが、学生数の大半は女子であり、また教育方面を目指す者もかなりいるようです。で、現在のところ就職志望者数については確認出来ません。

就職に際して採用側が「厳選主義」を唱えるのは当然ですが、各企業の多くは単に学業成績だけにたよらず、キメ細かな職務分析をして、このポストにはどんな人材が何人必要か、といった選定基準をつくり、そしてこの基準にあてはまる者だけを採用するという科学的テストを積極的にとり入れてきています。筆記試験は出来ても、このテストで失敗した例もあり、最近の実力主義時代を反映した「人物本位」の試験は、就職戦線の表情を大きく変えつつあるようです。

なお、日頃諸先輩の方々にはお忙しい中を後輩のために相談相手となつて頂きまして有難うございます。これからも各学部の学生が諸先輩を頼つてお伺いすること存じますが何卒よろしく御指導いただきますようお願い致します。

（就職事務室事務長 上野 正二）



いての近況を卒業生の皆さんにお知らせしておこうと思います。

青田刈りといわれた大学卒の就職も、最近では早苗刈りと呼ばれこれでは限界に達したかにみえましたが、四十三年度に入るや求人が相次ぎ、四月で既に五八件（昨年十五件）の申込みがあり、十月十四日現在では二、三八六件（昨年同日一、七〇〇件）に達しました。これは一昨年の総求人件数の倍に相当し今年度の就職志望者のほぼ全員が既に就職先を内定した現在でも、人事担当者が直接来室されたりして連日申込みが後を絶ちません。

規模的には各業界の大企業からの求人が一、〇〇〇社近くにはぼり、中でも今迄成蹊とはなじみの薄かった一流会社が目立って新規に指定校として求人依頼してきたことは、今年の大きな特徴となっています。しかし一見「売り手市場」のように見えても実際には各企業とも経営の合理化を目指して長期的な採用計画を立て「人物本位」の少数精鋭主義に徹しているため、まだまだ大企業への門は狭いといえます。

その大企業へ例年卒業生の八〇%以上が就職していることは、成蹊の少数教育の成果の表われと思います。就職先が内定している三百名を産業別に見ますと、製造業の一・二名が最も多く、次いで商事貿易業一〇七名、金融保険業四二名、その他二九名の順となり、来春四月にはそれぞれ皆さんの後輩として社会に進出することになります。また企業選択に当つての学生側の希望も以前とは若干変りつつあり、特に第三次産業のスーパーセンター、マスコミ、広告業等への人気は従来にない著しいものがありました。

当初懸念された文学部への求人は、前述の求人件数の約半数近く

成蹊会費芳名録

昭和四十三年四月三十日

終身会費払込者 （終身会費 七、五〇〇円）

安藤 進	安部 駿一郎	加治 秀昭	加藤 善武
相沢 由利子	青木 正之	鹿毛 達雄	各務 正幸
秋山 久恭	浅羽 茂	川口 則和	金井 保
浅見 良二	浅輪 真平	川村 昭郎	川越 達雄
荒木 洋之助	荒瀬 憲朗	河村 泰雄	河村 浩延
藍原 将夫	井崎 葉子	菊池 行紘	菊池 寛生
飯塚 正敏	飯野 義久	木下 克美	木村 明
五十嵐 英郷	池田 有宏	北川 隆夫	木下 美佐緒
石川 篤造	石崎 幹夫	久保毛 正之	北野 雅美
石原 邦生	市川 秀子	黒木 勝彦	工藤 昭夫
井上 義太郎	今泉 忠芳	黒竹 晴彦	黒田 陽一
宇野 統彦	植木 国治	後藤 昌弘	小松 脩三
上田 耿介	江口 以	昆 武宏	米谷 正
蛇名 秀人	遠藤 正明	佐々木 寿一	五月女 洋一
小田 晋	小原 将夫	佐藤 進	佐藤 和男
大江 百合子	大島 英義	佐藤 豊子	佐藤 洋史
大野 建光	大場 英男	齊藤 嘉明	齊藤 知茂
大森 道夫	岡田 尚武	酒井 四平	道祖尾 久生
音川 誉夫	男沢 正己	清水 龍雄	三溝 滋男
		島田 貢	柴田 寿一
			島森 暢